

2013年3月10日

安徽省「合肥市高新技术産業開発区・日本産業園」について

上海産業情報センター

横江 隆弘

今回は、江蘇省の隣りに位置する安徽省・合肥市高新技术産業開発区・日本産業園を紹介します。安徽省は、人件費の高騰の問題を解消したいという企業の注目を集める地域の一つとして関心がよせられる地域であります。また、企業の進出が増加しており、域内でのGDPの成長も中国の平均をはるかに超えており、中国国内でも成長が著しい地域と認識されています。今回は、その地域の状況を踏まえながら報告したいと思います。

1 安徽省及び合肥市の紹介

安徽省は、人口は約6,800万人で、面積は、13.94万平方キロとなっています。2012年1月から9月までの安徽省の域内総生産額は、前年同期比12.0%増の1兆2562.3億元であり、このうち第二次産業が、7364.5億元と全体の58.6%を占め、伸び率も同期比14.2%と成長の著しさを現わしています。(因みに、第一次産業が1269.4億元で、第三次産業が3928.4億元となっています。)

安徽省から海外への輸出の総額は、2012年1月から9月までで211億ドルとなっており、そのうち機電製品が、88.5億ドルで全体の66.2%を占め、続いて、紡績・服装製品が25.8億ドルと続いています。主な仕向け先は、欧州であり、同期比53.1%の増加で、37.7億ドルと最も大きく、アメリカ、アセアン、アフリカと続いています。

また、安徽省に進出するメリット・安徽省の優位性については、下記のとおりです。

- ① 発展の潜在余地が高く、経済発展が目覚ましい。GDP約14%の伸び
- ② 立地条件に優れ、交通が便利。合肥―大阪には直行便があります。
- ③ 資源が豊富であること。

食糧生産は3000万トン以上、鉱物資源も豊富で38種類が中国でトップ10に入っています。

- ④ 産業の特徴が明確であること。

自動車、家電、鋼鉄、有色金属、石油化学、装備製造の6種類

合肥市は、人口は約752万人で、面積は、1.14万平方キロとなっています。2011年の合肥市のGDPは、3636.6億元であり、現在GDPの伸び17%

以上を5年以上続けています。三国志において、曹操と孫権が争った土地として、また李鴻章を生んだ土地として、有名であります。現在は都市部人口も224万人から486万人に急増している発展著しい都市であります。

交通インフラにおいては、7本の高速道路が合肥市を貫いているほか、鉄道関係では、6本の鉄道路線が合肥市で交わっています。また、合肥空港及び合肥港があり、空路輸送も水路輸送もしっかりと確保されています。2012年4月から、大阪に向けては、直行便が就航しています。

合肥市は、家電、自動車、機械製造、化学工業、食品などの産業が集積しています。家電分野では、格力はエアコン、美菱は冷蔵庫、ハイアールはテレビ・エアコン・洗濯機、日中合弁の榮事達三洋は洗濯機・電子レンジの生産基地を合肥市に設置しています。また、自動車分野では、安徽省で2番目に大きい乗用車メーカーである江淮汽車の本部が置かれています。機械製造分野では、日立建機が中国の生産基地を設置していますし、また、ユニリーバは、中国最大規模の洗剤などの化学工業生産基地とミルクティーなどの飲料・食品生産基地を設置しています。

また、上述以外の現在進出している主な日系企業は、花王、三菱電機、ニプロ、ヨドコウなどとなっております。

2 安徽省合肥高新技术産業開発区・日本産業園について

安徽省合肥高新技术産業開発区は、1991年に国务院から国家級の開發区に認定された国家級レベルの開發区です。2000年には、ハイテク製品輸出基地に認定され、2008年には、国家級アニメ産業發展基地及びソフトサービス・アウトソーシング基地に認定され、2010年には国家イノベーション型化学技術工業園区に認定されました。

2011年同開發区内のGDPは、295.2億元で前年比49.1%増であり、固定資産投資額は、235億元で前年比32.77%増になり、工業總生産値は、1015億元に達しました。国内86あるハイテク開發区ランキングで第12位となり、大きな發展を遂げつつあります。

現在進出企業は、3680社であり、そのうちハイテク関連企業が236社であり、外資は300数社であるとのこと。

主な日系企業は、1994年に設立された合肥榮事達三洋電器有限公司（サンヨー）、久保田国禎環保工程科技有限公司（クボタ）、合肥恩斯克有限公司（NSK）などです。

私が訪問させていただいたのは、合肥榮事達三洋電器有限公司と合肥恩斯克有限公司の2社様ですが、合肥榮事達三洋電器有限公司は、登録資本金が5億3280万元であり、主な製品は、洗濯機、冷蔵庫、電子レンジなどの家電製品であり、合肥市内に3か所の工場があるとのこと。また、合

肥恩斯克有限公司は、日本国内ベアリング最大手のNSK社様の中国第12番目の拠点として、2011年7月に設立され、海外最大規模の拠点としての操業を目指して、現在工場設立の準備中でありました。

そして現在、開発区内に2000ムーの日本産業園を建設中であります。既に日本センターチームが立ちあげられ、進出されようとする日系企業を下記のサービスを中心にサポートしていくとのことです。

- ① 情報の交換
- ② コンサルティングサービス
- ③ プロジェクト建設に関する協力
- ④ 市場の開拓
- ⑤ 生活面でのサポート

万達 plaza、金鷹デパートなどのショッピングモールはすでに充実しており、日本食レストラン等も数店舗営業中のようです。

その他に、会社設立申請手続きの無料代行、人材募集の協力などの支援・協力があります。

最後に安徽省並びに合肥市に進出するメリットを考えてみたいと思います。現在、中小企業の皆様の課題としては、円高、税金高、電気料金高、物流コスト高、取引先の海外移転などが挙げられるのではないかと思います。

まず、中国政府は、今後様々な格差是正政策を打ち出してくることが予想されています。沿海部と内陸部の格差是正という点からみれば、当然内陸部にある安徽省は、優位性が高いということになります。人的資源の確保及び人件費の高騰の面からみると、人件費の高騰は今後も避けることができないと見たほうがよいと思います。但し、安徽省では、ワーカーの平均コストが約1000円ほどで雇うことができるようですし、安徽省人口のうち、労働人口を約2000万人とみますと、安徽省内に1000万人が留まり、1000万人が省外に出ているという統計があります。安徽省内で仕事が見つかるならば、地元に戻ってきたいというワーカーも相当数確保できるものと思われれます。

また、内需拡大政策により、安徽省での購買意欲が高まるという期待のほか、地方政府の投資意欲が盛んである点も考慮したいと思います。

さらに、合肥市は、内陸部の西安市を手本として、産業・物流の面でのHUB機能を持つ内陸部での無水港となるべく努力し、物流利便性の向上をメリットとして発展していこうとしています。

上海産業情報センターでは今後もこれらの状況の変化に注視していきたいと考えております。